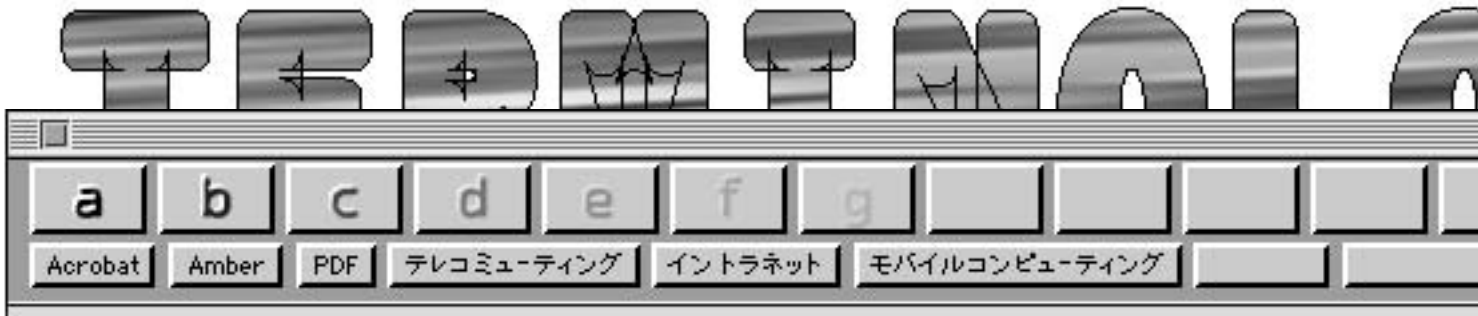
TERMINOLOGY of Internet



Acrobat【アクロバット】

米アドビ・システムズ社（Adobe Systems Incorporated）が開発した電子出版ソフトウェアの総称。通常、文書は用紙に印刷することを前提に作成されるが、Acrobatを使用すると、文書をPDFファイルに変換し、WWWサーバーやCD-ROMといった電子媒体に載せて流通させることができる。Amberなどのビューアーによってもとのイメージを画面上に再現したり印刷することができるため、作成に使用したアプリケーションやハードウェアに関係なく文書を交換することができる。

テレコミューティング（telecommuting）

バスや電車などで物理的に移動する代わりに、通信技術を使用して会社のネットワークにアクセスし、自宅で仕事をする勤務形態のこと。いわゆる在宅勤務のことであるが、コンピュータネットワークの利用が強調されている点が従来とは異なる。イントラネットを構築すると、社内資源へのアクセスがさらに簡単になるため、以前よりも実現しやすい状況にある。このような形態で「通勤」する人をテレコミューター（telecommuter）と呼ぶ。

PDF【ピーディーエフ】

Portable Document Format（ポータブルドキュメントフォーマット）の略。Acrobatの共通ファイル形式。テキスト、グラフィクス、画像を含んだ文書をPDFファイルに変換することにより、コンピュータシステムの種類に関係なく、また文書の作成に使用したソフトウェアやフォントに関係なく、Amberなどのビューアーを使用して表示、印刷することができる。PDFでは元のイメージを忠実に再現することができるため、WWWサーバーを使用したオンライン出版などへの応用が期待されている。

クリッカブルマップ（clickable map）

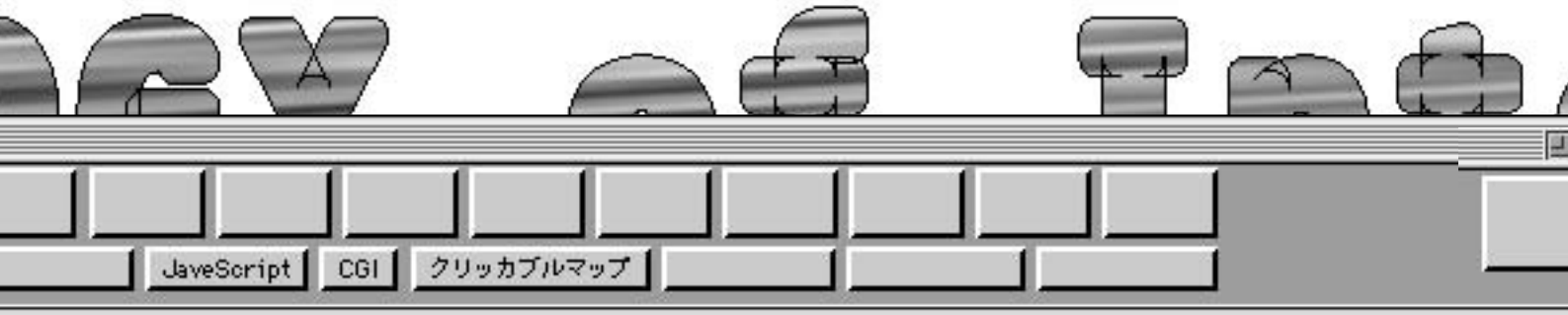
リンク先のアドレスが埋め込まれている画像のこと。この画像をマウスでクリックすることにより別のHTML文書やページが表示される。観光案内などのホームページで利用されることが多く、地図上で目的の場所をクリックすることにより関連情報が入手できるようになっている。特に地図に使用が限定されているわけではなく、絵を中心としたメニューなどにも利用できる。ホームページを画像中心に構成できるため、操作性の向上に役立つ。

CGI【シージーアイ】

Common Gateway Interface（共通ゲートウェイインターフェイス）の略。HTTPDなどのWWWサーバーとサーバー上で動作する外部プログラムとの汎用インターフェイス基準。CGIに従って作成されたプログラムのことをCGIプログラムと呼ぶ。データベースなどの外部資源から情報を取得し、それをホームページに表示するといった機能をCGIプログラムでは提供することができる。サーチエンジンがその代表的な例としてあげられるが、プログラムによる処理が可能なことから、アクセスカウンターやアニメーションの作成などにも応用されている。プログラムに使用する言語はサーバーが搭載されているシステムによって異なり、C/C++、Perl、Unixシェル、AppleScriptなどが使える。システムがサポートするプログラミング環境を直接使用するため、セキュリティに不安が残ることから、CGIを使えないようにしているサーバーもある。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

今回はモバイルコンピューティング、その他の用語を中心に解説しました。ご意見やご要望をお待ちしています。
E-mail to：ip-term@impress.co.jp



Amber【アンバー】

ネットスケープ・ナビゲーターのプラグインの1つ。WWWサーバーに格納されているPDFファイルのビューアーとして米アドビ・システムズ社から提供されている。Amberが提供されていないブラウザーでは、Acrobat Reader（アクロバットリーダー）をヘルパーアプリケーションとしてインストールする必要がある。正式名はAcrobat Amber Reader（アクロバットアンバーリーダー）。

JavaScript【ジャヴァスクリプト】

Java言語をベースに米ネットスケープ・コミュニケーションズ社が開発したオブジェクト指向のスクリプト言語。Javaとほぼ同じ機能をサポートしているが、Javaの場合ソースコードを一度コンパイルしアプレットとして提供するのに対し、JavaScriptではプログラムをHTML文書に埋め込み、ブラウザー（ネットスケープナビゲーター2.0）のJavaインタープリターで解釈し実行する点が異なる。JavaScriptで作成したアプリケーションはブラウザーですぐに動作を確認できるのでJavaよりも簡便に取り扱うことができる。ただし、ハードディスクへの入出力が禁止されているため、画面制御の使用に限られる。例えば、ネットスケープナビゲーターのウィンドウの一番下にあるステータス欄にテロップを流しているホームページを最近見かけるが、この仕掛けはJavaScriptで記述することにより実現できる。

モバイルコンピューティング（mobile computing）

従来は、通勤中や出張中にノートパソコンなどを使用し、スケジュールを確認したり報告書を作成するプロセスのことを指していたが、現在ではこれに加え、ネットワークを使用して移動先から情報伝達を行うことも含まれる。そのため、無線、携帯電話、PHSといった通信関係の比重も高くなっており、現状を反映すればモバイルコンピューティング・アンド・コミュニケーションズ（mobile computing and communications）とするのが正しい。今後、イントラネットなどによって社内ネットワークへのアクセスが自由にできる環境が整えば、オフィスと同じ情報を移動先でも入手できるため、移動オフィス（mobile office）の実現に一歩近づくことになる。モバイルとモービルは、ウイルスとビールスの例に見られるように単に表記上の相違にすぎない。

イントラネット（Intranet）

インターネットで培われた技術、あるいはインターネットそのものを利用して構築したネットワークのこと。現状では次の3つのフェーズがあると考えられる。

（1）TCP/IPなど、インターネットプロトコルに対応したソフトウェアやハードウェア製品を使用してローカルエリアネットワーク（LAN）や広域ネットワーク（WAN）を構築する段階。ベンダー独自の製品に左右されずにオープンなネットワーク環境が実現できるため、コストを低く抑えたり、また保守も簡単に行えるといった利点がある。

（2）その組織に所属する人だけがアクセスできるサーバーを設置し、情報交換や連絡を行う段階。インターネットユーザーは通常WWWブラウザーを使用してサーバーにアクセスしているため、この点ですでにユーザーインターフェイスは統一されている。どのベンダーのWWWブラウザーも基本的な機能は同じであり、採用にあたって部門間で調整する必要はない。また電子メール機能を備えるものもあり、WWWブラウザーだけで一通りの連絡業務がこなせるという利点もある。

（3）インターネットを内部のネットワークとみなして利用する段階。従来、遠隔地との通信には独自のネットワークを構築しなければならなかったが、プロバイダーによって各地にアクセスポイントが設置され始めたこと、また暗号やファイアーウォールといったセキュリティ技術の発達によって、インターネットを利用した専用ネットワークの構築が可能になっている。インターネットの場合、通信経路が寸断されても迂回して確保できるため、従来のネットワークよりも災害に強いという利点がある。

イントラネットは企業が社内専用のネットワークとしてインターネットを利用するときの呼び方として定着し始めているが、この場合はコーポレートイントラネット（Corporate Intranet）と表記するのが正しい。実際の操作環境においてはイントラネットとインターネットの区別を意識することが次第に少なくなることが予測され、今後は同じ意味をもつ用語として使用される可能性が高い。Intranetはintra-（内部）とnet（ネット）との混成語。現在では、ネット（Net）と言えばインターネットのことを指すことが多い。

©1994-2007 Impress R&D

［インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ］ ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D（株式会社インプレスから分割）が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

http://i.impressRD.jp/bn

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D（当時は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先
株式会社インプレスR&D
All-in-One INTERNET magazine 編集部
im-info@impress.co.jp

Copyright © 1994-2007 Impress R&D, an Impress Group company. All rights reserved.